

# 国土数値情報ダウンロードサイトの リニューアルに関する取組状況報告

---

国土交通省 政策統括官付  
地理空間情報課  
2026年3月12日

- データの検索や閲覧に関するユーザの更なる利便性向上や、サイト保守の効率化を図るため、ダウンロードサイトのモダン化と機能改善、提供データ形式やメタデータの改善を伴うリニューアルを実施する。
- 令和7年度に調査業務を実施。令和8年度に新サイト開発及びデータ移行、令和9年4月リリース予定。

### ■ 令和6～7年度

- 「今後の国土数値情報の整備のあり方に関する検討会」最終とりまとめにおける、ダウンロードサイト改善に関する方針のうち、現行サイト改修で早期に実施できるものを対応。  
(一括ダウンロード、エラー情報ページ、意見投稿フォーム、チュートリアルや用語集の提供等)

### ■ 令和7年度

- 新規ダウンロードサイトの構築及びデータ改善に向けた3つの調査業務を実施した。
- 国土数値情報ダウンロードサイトの  
「①モダン化・機能改善に係る調査」「②閲覧サービスの改善に係る調査」「③データ改善に係る調査」
- ユーザへのアンケート結果（令和7年10月実施）、他のGISデータカタログサイトとの比較、デジタル庁の方針やガイドライン、ラウンドテーブル（令和7年3月開催）の意見、検討会最終とりまとめ等を踏まえ、現状を評価し、新しいサイトとデータの要件を定義した。

### ■ 令和8年度

- 新サイトの開発及びガバメントクラウド移行、既存データの改善・移行作業を実施
- 令和9年4月に新サイトリリース

※過年度整備分含む全データを移行予定。

なお、JPGIS1.0(XML)、旧統一フォーマット(テキスト)、国土調査、位置参照情報は、R9年度以降に移行作業を行う予定。それまでは現行サイトも併存し、新サイトにリンク掲載する。

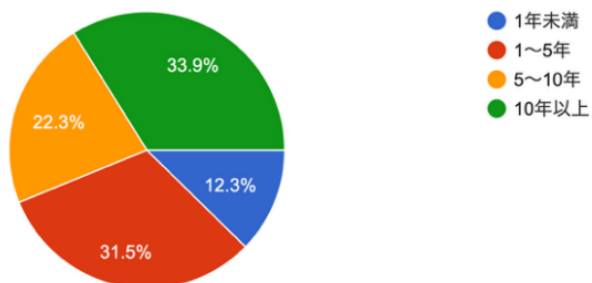
- 国土数値情報ダウンロードサイトの機能改善及びデータ改善に関するユーザーアンケートを実施（令和7年10月10日～24日）。約900名に協力依頼し、292名より回答いただいた。

GIS経験度や所属を問わず幅広い属性のユーザ292名から回答いただいた

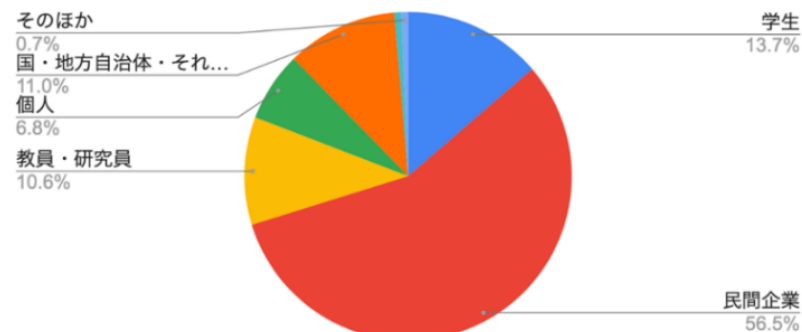
問2.

あなたの「GIS利用年数」を1つだけ選んでください。

292件の回答



問4. あなたの現在の主なご所属に最も近いものを教えてください。  
(単一回答) (292名)



主に7つの視点からアンケート質問を設計した

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| ① データの検索プロセスの効率化     | ⑤ 使いやすいGISデータの提供 |
| ② データのダウンロード手順の簡略化   | ⑥ 使いやすいメタデータの提供  |
| ③ データの内容確認・閲覧手段の高度化  | ⑦ タイルデータに対するニーズ  |
| ④ API連携によるデータ利活用の自動化 |                  |

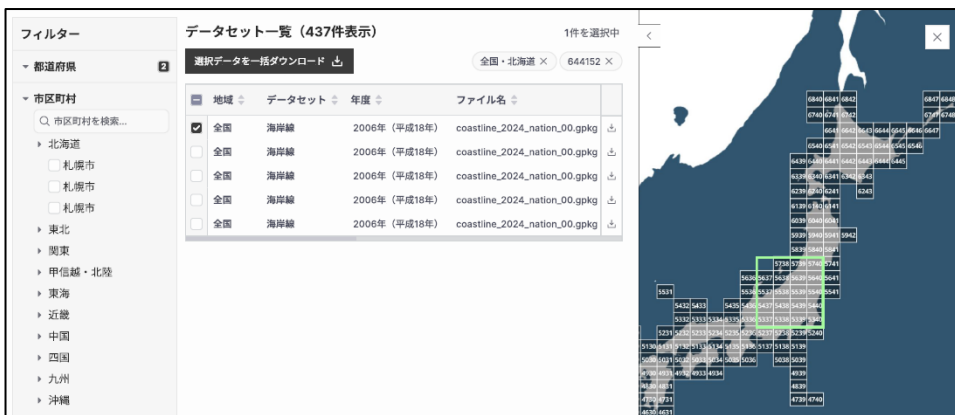
# 検討結果：国土数値情報ダウンロードサイトの機能改善

- ユーザアンケートや他カタログサイトとの比較結果等を踏まえ、新サイトでは、目的に応じてデータを検索できる各種機能や、ダウンロード前にデータの内容が確認できる地図プレビュー機能を実装する予定。

現行サイトの機能は維持しつつ、新サイトでは以下の新機能の実装を行う

新機能	補足
① キーワード検索機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>データセット名によるキーワード検索機能</li> </ul>
② 地図から検索機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図上で指定した範囲・地域内に存在するデータのリストを横断的に検索する機能</li> </ul>
③ フィルター機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備年度、データセット名、地域、カテゴリ、ライセンス別に、データセットを絞り込む機能</li> </ul>
④ 地図プレビュー機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>各データセットの詳細ページにて、ダウンロード前に地図上でデータを確認する機能（地図上で地物をクリックすると属性情報も確認可） （整備データをベクトルタイル化し、地図プレビュー機能で表示する）</li> </ul>

イメージ：②地図からデータリストを検索する機能



イメージ：④ 地図プレビュー機能（データ詳細ページ）



# 検討結果：国土数値情報のデータ及びメタデータの改善

- 使いやすいデータ・メタデータを提供するため、国土数値情報のデータのファイル形式、ファイル名、属性名、フォルダ構成の現状からの変更と、機械判読性が高く、情報が網羅されたメタデータの新規整備を行う予定。

改善事項	補足
① <u>ファイル形式にGeoPackageを追加</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の形式（Shape・GeoJSON・GML）に追加</li> <li>データ変換パイプラインでShapeをGeoPackageへ自動変換</li> </ul>
② <u>ファイル名の命名規則を統一化</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのデータセットも同一規則でファイル命名 データセット名_基準年_サブセット_地域タイプ_地域コード_ファイル形式</li> </ul>
③ <u>Shapeの属性名を短縮英数字の直感的に理解しやすいものに変更</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GMLの属性名を流用しつつ、半角10文字制限以内で命名 例：属性名 N03_007（現データ） → prefCode（新データ）</li> </ul>
④ <u>ファイル・フォルダ構成を統一化</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのデータセットのダウンロードデータも同一のファイル・フォルダ構成</li> </ul>
⑤ <u>属性情報のメタデータを新規整備</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>属性情報とコードリストを機械判読性の高いメタデータ(json)で整備</li> <li>ユーザがダウンロードサイトの詳細ページを閲覧せずに属性仕様を把握可能に</li> </ul>
⑥ <u>データ詳細ページのメタデータを新規整備</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備方法、原典資料、使用許諾条件等の詳細情報をメタデータ化(json)</li> </ul>

## 期待される主な効果

- ・ ユーザがダウンロードしたデータの内容を直感的に理解できる
- ・ データが構造化されることで、種類・年度・地域等の条件でデータ検索できる
- ・ プログラムや生成AIがデータ構造を自動判読して処理できる（外部システムとの連携性が向上）

※ ユーザーニーズがあると考えられる、APIやベクトルタイル配信の提供については、技術的動向や、コスト面での持続可能性等を踏まえ、引き続き検討を進める予定